

明治川神社 ① 《社寺》

この神社は、明治18年(1885)4月1日の創建で、以前は水神社といいました。明治用水開さくの関係者(都築弥厚、伊豫田与八郎、岡本兵松)が守護神として合祀されています。例祭は毎年4月18日に行われています。北隣には、明治13年(1880)に上倉池まで用水がひかれた時の記念碑があります。



江戸時代の歴史資料、石川喜平測量具、和算免許状、和算資料(市指定)を有する神社です。

大浜街道 ③ 《街道跡》

この街道は、江戸時代に碧南から足助に向かって塩の俵を積んだ馬が通った道(塩の道)といわれています。東海道と交差する現在の浜屋町と宇頭茶屋町の境には、いくつかの茶店があり、「大浜茶屋」と呼ばれました。



永安寺の雲竜の松 ② 《天然記念物》

【昭和60年11月25日 県指定】
一般に、松の主幹は直上して伸びるのに対し、このクロマツは横に幹が広がっています。主幹は高さ1.5mのところから真横に、北西、南、東に三方向へと伸びています。枝張りは東西17m・南北24mにおよび、その樹形がたなびく雲のようであり、また臥せる竜のようでもあるため、「雲竜」の名称が冠されています。樹齢は300年と推定されています。



柴田助太夫墓碑 ④ 《墓碑》



【昭和43年4月1日 市指定】
浜屋町北屋敷の共同墓地の一角にあります。墓石は花崗岩の自然石でできています。柴田助太夫は、大浜茶屋村の庄屋でしたが、延宝5年(1677)刑死したことがわかっています。処刑の理由は、助郷(宿駅の必要に応じて人馬を負担する制度)の免除を申し出たためといわれています。天保12年(1841)に幕府から助郷を命じられたとき、この村は、このことを根拠に免除を願い出て認められています。助郷が制度化されたのは元禄以降であるため疑問もありますが、いずれにしても村のために命をなげうった義民として助太夫は顕彰されてきました。

明治天皇記念碑 ⑤ 《記念碑》

宇頭茶屋町大浜屋敷の日本陣高井善兵衛方には、明治元年(1868)から11年(1878)にかけて4回、明治天皇が旅の途中に休憩されました。その場所に「明治天皇御駐蹕之所」の碑が建っています。また、東柴町2丁目の墓地と今本町石田にも「明治天皇野点所」の碑があります。



妙教寺 ⑥ 《社寺》

当山を開いた日喜上人は、明治33年(1900)に喜徳眞天を守護神として勧請し、明治36年(1903)に自宅(宇頭茶屋町)に志貴教会を設立しました。その後、昭和21年(1946)に法華宗法喜山妙教寺を創立し今日に至っています。室町時代の彫刻、木造釈迦如来・多宝如来坐像附厨子(市指定)を有する寺です。



木造釈迦如来・多宝如来坐像附厨子

東海道のマツ並木 ⑦ 《天然記念物》

【昭和45年3月16日 市指定】
徳川家康は、慶長6年(1601)東海道の宿駅を定め、つづいて慶長9年(1604)には、街道に一里塚を設置して道の両側に松を植えさせました。さらに慶長17年(1612)の道路の補修、並木敷地等の定めをして街道を直接管理しました。

こうして街道の松並木は、旅人に風情を添え、夏は陰をつくり、冬は風雪を防ぐのに役立ちました。幕府はその保護補植に力を注ぎ、街道沿いの農民たちの出役によって、その清掃整備をしてきました。近年風害や公害等のため、その数を減らしていますが、現存する230本のうち大きいものは、樹齢200~250年と推定されています。



熊野神社 ⑧ 《社寺》

鎌倉時代の工芸品とされる薬師如来懸仏と室町時代の彫刻、木造不動明王立像(市指定)を有する神社です。この神社の森は、往古「踏分の森」と呼ばれていました。現在は尾崎町の鎮守社で、毎年10月14日に大祭が行われます。



一里塚跡 ⑩ 《塚跡》

徳川家康は慶長9年(1604)、全国の街道に一里(約4km)塚を設置しました。塚は、約9m四方の土地に4m程の土盛りし、松や榎を植えて目印にしたものです。旅人はこれを目安にして旅をしました。安城市内には熊野神社の南西の一角に石碑があります。



開拓記念碑 ⑪ 《記念碑》

明治以来の志貴小学校区から豊田・岡崎方面の開拓地は、第二次世界大戦が熾烈を極めていたころ、一時飛行場として使われました。戦後は再び開拓され水田になりました。海軍航空隊の防空監視塔は、耕地開発事業の記念碑として、橋目町の市営墓地の一角に移されました。



予科練之碑 ⑨ 《由来碑》

第二次世界大戦が熾烈を極め、戦力の増強が急務となったため、海軍は昭和19年(1944)2月、この地(志貴小学校区から豊田・岡崎方面)に飛行場(岡崎航空隊)を作りました。海軍予科練習生は5月入隊の一期生から12月入隊の八期生までおよそ六千名におよびました。その慰霊碑が熊野神社の南東の一角にあります。



火の見櫓 ⑫ 《建造物》

江戸時代に誕生した火の見櫓は、地域防災のシンボルとして近年までの町内でも見ることができました。浜屋の火の見櫓は、昭和28年(1953)に建てられたもので、安城市内では現存唯一の火の見櫓です。かつては永安寺の敷地内にありましたが、昭和56年(1981)に現在地に移設されました。見張台は二つあり、上段が円形、下段が張り出し式のもので、どちらにも半鐘が付いています。



安城 歴史の散歩道

～ 東海道と鎌倉街道めぐり～

今村公会堂 ⑭ 《建造物》

寄棟造の公会堂棟と入母屋造の旧社務所棟からなる建物で、昭和4年(1929)に完成しました。昭和初期において洋風意匠が大衆建築に取り込まれていく過程が、天井や照明ランプ座、演壇廻りからわかる貴重な近代建造物です。なお、公会堂が建てられる前にあった公民館(明治44年建設)は「有守館」と呼ばれており、東側にある門柱にその名が刻まれています。



専超寺 ⑯ 《社寺》

この寺は、山号を高瀬山という真宗大谷派の寺です。弘法大師が草創し、親鸞の布教により真宗に転じたと伝わります。安永8年(1779)に再建された本堂をはじめ、山門・鐘楼・経蔵など江戸時代後期の真宗寺院伽藍がよく残っています。境内には樹齢300年前後と推定されるケヤキ(市指定天然記念物、周囲3.3m樹高19.5m)があります。



ケヤキ

西方寺 ⑮ 《社寺》

この寺は、八幡山西方寺といい真宗大谷派の寺です。創始は寛文3年(1663)、養心が初代住職でした。現在の本堂は天明4年(1784)に再建されました。市指定保護樹木のクロマツ(周囲2.05m)が庭の中程にあります。安土桃山時代の絵画、絹本着色覚如上人像と室町時代の書跡、絵本墨書六字名号(市指定)を有します。

白山比売神社 ⑬ 《社寺》

和銅6年(713)崇福寺の創建とともに祭神である白山姫命をこの寺の守護神として境内に勧請したと伝わります。これが今の白山比売神社といわれています。明治23年(1890)に拝殿の新築造営が行われました。毎年10月16日に大祭が行われます。なお、境内地は、室町時代に松原氏の館があったと伝わり、「今村城跡」と呼ばれています。



崇福寺 ⑰ 《社寺》

臨済宗妙心寺派の寺で、白山比売神社とともに創建されたと伝わります。七堂伽藍の装備した広大なものですが、永禄年中(1558~70)兵火にあい消失しました。慶長年代(1596~1615)に千岩和尚が寺跡に寺院を建立し、崇福寺は、これを開山としています。時代不詳の絵画、絵本着色釈迦三尊像と室町時代の絵画、絹本着色阿弥陀三尊来迎図(市指定)を有する寺です。



安城北小学校なんじゃもんじゃ ⑰ 《天然記念物》

【平成31年2月21日 市指定】
安城北小学校の校庭に植えられているヒツパタゴは、「なんじゃもんじゃ」と呼ばれ地域の人々に大変親しまれています。この木は昭和2年(1927)に、町内に住んでいた神谷礼治氏が、勤務地の犬山市に自生していた国指定天然記念物のこの木の美しさに魅せられて同校に寄贈したものです。



西方寺 ⑮ 《社寺》



不乗森神社 ⑱ 《社寺》

この神社は、冷泉天皇の安和年間(968~970)に近江国坂本(滋賀県大津市)の日吉大社より勧請したと伝わります。境内北を鎌倉街道が通り、通行の際は下馬し拝礼するのを例としたとされたことから、「駄野森」ともいきました。湯立神事(市指定)は、毎年3月9日に祈年祭とあわせて行われています。梅泉庵芳水が詠んだ「歌碑」が、神社裏の鎌倉街道沿いにあります。



慈光寺遺跡之碑 ⑳ 《遺跡》

慈光寺は、もともと青野(岡崎市下青野町)にある、浄土真宗本願寺派の三河七か寺の一つに数えられる有力な寺院でした。しかし、永禄6年(1563)、同7年の三河一向一揆で徳川家康に反抗したため、慈光寺も他の有力寺院とともに追放され、ここより北の八幡山(現在のデンソー工場敷地内)に移りました。天正13年(1585)には七か寺の追放が解かれ、三河帰還が許されました。慈光寺は許されたとはいえ、すぐに青野に戻らず、天正18年(1590)になって移転したと伝えられます。



タブノキ ㉓ 《樹木》

里町西野の野々山家は、初代がこの地に移住したのが延宝2年(1674)のことでした。その庭に植えられたと伝えられるこのタブノキは、周囲3mにおよび、市指定保護樹木となっています。



鎌倉街道及び花の瀧伝承地 ㉔ 《伝承地》

【昭和58年7月20日 市指定】
鎌倉街道は、古代の官道をもとに源頼朝が開いた鎌倉と京都とを結ぶ道です。「鎌倉街道」という言葉は、鎌倉時代から呼ばれていた名称ではなく、江戸時代になってから「昔鎌倉へ向かう道」として呼ばれるようになったものです。安城市内では、鎌倉街道が通っていたとされる場所は、中世の記録を手がかりに、宿駅八橋(知立市)から矢作川渡方面に向かう道の里町から山崎町に至るまで、8.5kmに及んでいたと推測されます。現在は、里町不乗森神社の北側に30m、尾崎町熊野神社の西側に60m程、その面影を残しています。また鎌倉街道沿いにあった菖蒲池地内の花の瀧は、寛文6年(1666)の飯尾宗祇の「名所方角鈔」に記されていて八橋八景の一つでした。江戸時代の中期刊に降、三河地方の地誌には、「新古今歌集」の代表的歌人慈円の歌(風わたる 花をみかほの八橋の くもでにかかる 滝のしらいと)が花の瀧を詠んだ歌として伝承されています。



濱碓之碑 ㉕ 《顕彰碑》

里町中野池には、明治時代に活躍したこの地出身の力士、濱碓をたたえる石像があります。彼は、巡業中の負傷がもとで明治16年(1883)に廃業しました。引退後は菓の行商をするかたわら、地方の相撲興行や大相撲の地方巡業の世話方として活躍しました。周辺には濱碓が恩人のために建てた石碑や灯籠も残されています。



【明治川神社コース】(3時間)

- 1 明治川神社
- 2 永安寺の雲竜の松
- 3 大浜街道
- 4 柴田助太夫墓碑
- 5 明治天皇記念碑
- 6 妙教寺
- 7 東海道のマツ並木
- 8 熊野神社
- 9 予科練之碑
- 10 一里塚跡
- 11 開拓記念碑
- 12 火の見櫓

● 順路
 ●●● 東海道のマツ並木
 ▲ 公園・トイレ
 ⊥ 墓地

本図の位置

歴史の散歩道
 ~東海道と鎌倉街道めぐり~

安祥文化のさと
 安城市歴史博物館
 安城市埋蔵文化財センター

※掲載されている文化財の中には、個人所有のものがああります。見学の際には所有者に承諾を得たり、ごみは持ち帰るなどマナーを守るようお願いします。

安城市歴史博物館・安城市埋蔵文化財センター

安祥文化のさと

利用のご案内

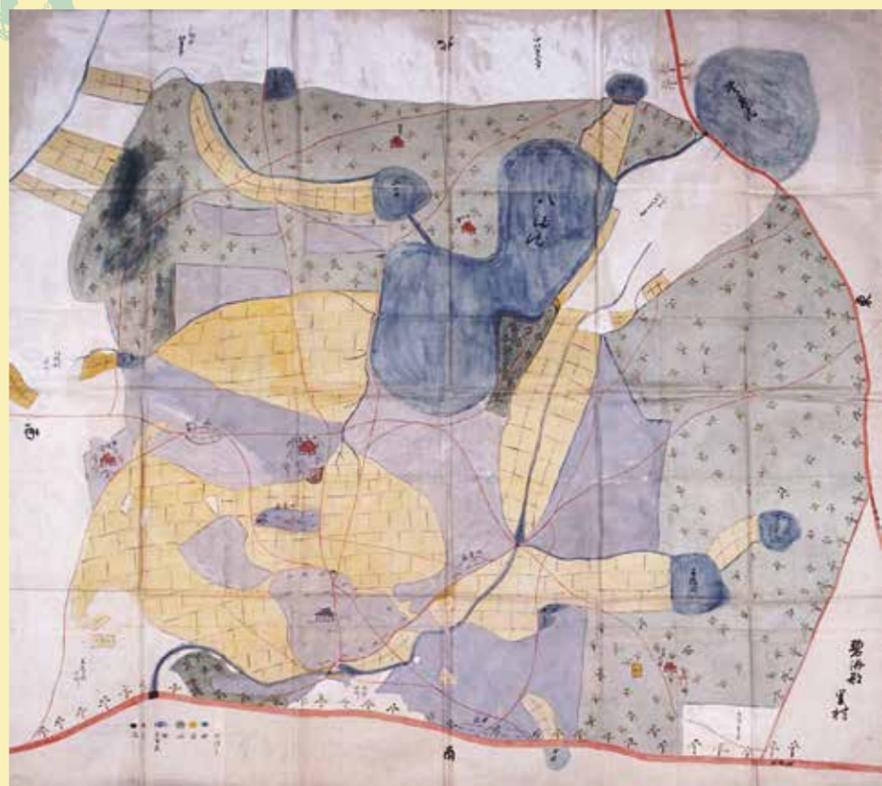
- 開館時間 AM9:00~PM5:00 (入館時間PM4:30まで)
- 休館日 毎週月曜日(祝日の場合は開館) 年末・年始(12/28~1/4)
- 歴史博物館観覧料
 【常設展】一般：200円
 【特別展】一般：400円程度
 ◎常設展も観覧可。
 ※中学生以下は無料
 ※団体(20人以上)、障害者は割引有り。

〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀30番地
 歴史博物館 TEL 0566-77-6655 FAX 0566-77-6600
 埋蔵文化財センター TEL 0566-77-4490 FAX 0566-77-6600
 URL <http://www.city.anjo.aichi.jp>

環境に優しい植物油インキを使用しています。
 2019.3 5,000 (S)

安城

歴史の散歩道
 ~ 東海道と鎌倉街道めぐり ~



安城市教育委員会

【白山比売神社コース】(3時間)

- 14 今村公会堂
- 15 崇福寺
- 16 専超寺
- 17 安城北部小学校のなんじゃもんじゃ
- 18 西方寺
- 19 不乗森神社(歌碑)
- 20 鎌倉街道及び花の龍伝承地
- 21 慈光寺遺跡之碑
- 22 濱碓之碑
- 23 タブノキ

● 順路
 ●●● 東海道のマツ並木
 ▲ 公園・トイレ
 ⊥ 墓地